

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

汲沢地域ケアプラザ

■ 事業報告

1 全事業共通

地域の現状と課題について

・ 汲沢地区、北汲沢地区、踊場地区の 3 地区では地域の方々を対象としたアンケート調査を実施し、共通した地域課題として、①見守り支援、②移動支援、③居場所づくりの 3 点を抽出しています。

①見守り支援については、「汲沢地区見守り活動連絡会」、「踊場地区見守りプロジェクト」などが始動し、高齢者等の見守り活動が実践されています。生活支援コーディネーターをはじめとした 5 職種は、地域の連絡会、定例会等に積極的に参加し、見守り支援について協働してきました。北汲沢地区では、②移動支援・生活支援として「北汲沢地域総合福祉活動委員会」が活動を展開していますが、世代交代を含めた更なる社会資源としての移送支援を考えています。ケアプラザは、3 地区と共に協議体として位置づけている「3 地区情報交換会」において、地域の民間企業・機関による移動支援の実態に関する情報共有を図っています。

③居場所づくりについては、ケアプラザで企画運営をしていた「ぐみカフェ」を「とつかハートプラン」に位置づけた「ぐみカフェプロジェクト」として立ち上げ、汲沢地区社会福祉協議会と検討を重ねました。また、踊場地区主催の「踊場ふれあい午後のカフェ」には、ケアプラザの書籍を持参した「出張図書コーナー」を設け、貸し出しを行っています。お茶と本の組み合わせには、リピーターもいて好評です。

・ 少子高齢化に伴い、地域福祉や地域づくりを担う次の世代を育てていくことは、なかなか難しい課題ですが、北汲沢地域総合福祉活動に新しく若い世代の方が加わったことや、「踊場ふれあい午後のカフェ」に新たなボランティアさんが参加することで、少しずつ広がりを見せています。地域活動交流コーディネーターが講師としてボランティア研修会を実施し、新たなボランティアさん発掘を行いました。

・ 地域の問題ケースとして、高齢者虐待、8050問題、孤独死、ごみ屋敷など、数は少ないですが実在しています。こうしたケースには行政や関係機関との連携・協働が必須で、これからも地道に取り組んでいきたいと思えます。

(1) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

・ケアプラザから一番遠い矢部町を始めとする踊場町内会は毎月第1土曜日 19時30分から開始される定例会に生活支援コーディネーターが出席し地域状況の把握と情報提供を行いました。踊場町内会内にある「たつみ訪問看護ステーション」の協力を得て地域包括支援センターが実施している「介護予防教室」についても積極的に情報提供を行い、たつみ訪問看護ステーションと踊場町内会との関係構築にも寄与しました。また汲沢2丁目を中心とする東明会は毎月第2、第4木曜日 13時から開催している東明会老人会「寿会」に毎回生活支援コーディネーターが出席し情報提供と地域状況の把握に努めました。ケアプラザには気軽に足を運ぶことが難しい地域であるがゆえに顔の見える関係性が出来ていくことで定例会に出席しているコーディネーターに気軽に声を掛けやすくなり、また気になっている事などの些細な声が情報として入ることに繋がり、結果的に個別対応にも繋がりました。

・子育ての相談については、地域活動交流コーディネーター、サブコーディネーターが中心となり、ケアプラザ主催事業を始め図書コーナーの利用や散歩中に来館されたお母さん達へ踊場地区と一緒に作成した「踊場子育てマップ」を差し上げる等の情報提供に努めました。

(2) 各事業の連携

・毎月開催している「地域ケア会議」検討会は生活支援コーディネーター、地域活動交流コーディネーターも参加し5職種で開催しました。生活支援コーディネーターからは地域状況について簡易的なアセスメントシートで情報共有し、地域活動交流コーディネーターからはケアプラザ主催事業を中心に情報提供を行い、包括が把握している個別ケースの情報と地域情報が繋がる役割を果たしました。また生活支援コーディネーターは地域活動交流事業部門会議でも地域情報について提供し地域・地域包括が一体的に地域支援に取り組める環境を整えました。

・生活支援コーディネーターが出席している各地域活動定例会等で出される個別ケースについて常に包括支援センターと情報共有を行い、個別支援が必要な場合は包括支援センターが関係者との連絡調整役を担いました。例えば、汲沢地区民児協では今年度から定例会の中で必ず民生委員と包括職員との個別ケースに関する情報共有の機会を設けることになりました。また「汲沢地区見守り活動連絡会」や「踊場ちよこっとボランティア」では個別ケースでの対応が増えてきたことから、定例会等で包括職員から地域活動と包括支援センターとの関係性について説明し、早い段階で包括に情報が提供され、また地域活動もボランティア皆さんが安心して活動出来るように努めました。

・地域活動交流コーディネーター中心に企画した「ぐみカフェ」については、平成30年度1年間をかけて汲沢地区社会福祉協議会との協議を重ねた結果、汲沢地区で2年前に実施した全世帯アンケートの中にも「居場所」についての課題が取り上げられていたことから、ケアプラザ主催事業としてではなく「とつかハートプラン」汲沢地区別計画の一環として10月から「ぐみカフェプロジェクト」を立ち上げ、約10名のメンバーと一緒に検討を重ねています。生活支援コーディネーターと地域交流コーディネーターと一緒に取り組みました。

・汲沢地区社協、西横浜国際総合病院共催事業「健康医療講演会」は生活支援コーディネーターと看護師が協力して12月1日に実施しました。また踊場地区、踊場地区センター共催で医療講演会も企画しています。

・主任ケアマネジャー主催「ケアマネ勉強会」においては生活支援コーディネーターも参加しケアマネジャーに向けて地域状況について情報提供しました。

・8月から開始した「県営汲沢団地自治会の皆さんと一緒に「まち」を考える会（以下、県団まちを考える会）」を県営汲沢団地とケアプラザの情報共有の場として毎月開催しています。ケアプラザは生活支援コーディネーターを中心に、地域包括支援センター職員、また地域活動交流コーディネーターがその都度出席し情報共有を行いました。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ・ 所長及び5職種がサブコーディネーター等と協力しながら、それぞれの業務、役割に専念しました。
- ・ 5職種間の連携は、机を並べていることもあり、課題解決に向けてすぐに報告・連絡・相談できる体制となっています。
- ・ 職員の育成については、内部研修、外部研修に積極的に参加してもらい、事後の研修報告も徹底しました。年2回開催のケアプラザ運営協議会においても研修実施報告をしました。職員のキャリアアップ、専門性の質の向上のため、研修費用は交通費も含めて施設が負担していますが、職員の自発的な研修（自主研修）にも補助を行いました。
- ・ 定期的実施している「利用者アンケート」の結果については、利用者の声、要望として真摯に受け止め、振り返りを行い、職員全員で改善策を検討し、改善を実践しました。また、アンケート結果と対応策は、広報誌やホームページにも掲載しました。
- ・ 公正・中立のアンケートは、期間内の実数は出ませんでした。常日頃から公正・中立性についての意識付けを徹底しています。
- ・ ケアプラザに寄せられた苦情・要望については迅速誠実な対応を行い、その内容結果については館内掲示すると共に、運営協議会において報告し、広報誌への掲載も行いました。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ・ 3地区（汲沢、北汲沢、踊場）連合町内会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会等、毎月の定例会へ出席し適宜、情報共有しました。
- ・ 汲沢地区「見守り活動連絡会」ではコーディネーターがアドバイザーとして関わっています。今年度は10月に大久保自治会、ぐみさわ東ハイツ自治会の「見守り活動連絡会」へコーディネーターと主任ケアマネジャーが出席し単一町内会との関係構築にと努めました。
- ・ 踊場地区「見守りプロジェクト」では民生委員児童委員と友愛活動員による情報交換会を中心に、地域の見守り体制の充実に向けて、コーディネーターが事務局メンバーとして関わっており、今年度は認知症をテーマに設定して実施しました。当日は主任ケアマネジャーも一緒に参加し個別ケースを中心にスーパーバイズの役割を果たしました。
- ・ 「ぐみさん会」では主任児童委員が主に中学校や高等学校、区役所等の関係機関と連携し特に児童への普及啓発活動に取り組んでいきます。今年度は8月に戸塚高校へ出張し「学び塾」の中で講演を行いました。
- ・ 他に戸塚区子育て支援拠点「とつとの芽」や戸塚区生活支援センター等とも連携し様々な支援事業に繋げました。

(5) 区行政との協働

- ・ 「とつかハートプラン」における地域連携チームの一員として、区行政や社会福祉協議会との連携をとりながら、担当地区の地区別計画を推進しました。
- ・ 高齢者の虐待、権利擁護、8050問題など、包括支援センターに寄せられた相談や問題・課題に対して、区担当の方と問題解決に向けて協働しました。
- ・ 「県団まちを考える会」には区職員、社会福祉協議会職員の参加もあり、地域の方々と共に情報共有と今後の活動について検討しました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

- ・6月から開始された踊場地区主催「踊場ふれあい午後のカフェ」にケアプラザに常設している「図書コーナー」を活用して図書ボランティア皆さんにも協力して頂き自主事業「出張図書コーナー」として初めて実施しました。
- ・夏休み企画としてケアプラザを利用しているサークル「716crop」、地域で活動している「mama craft」と一緒に協力して小学生を対象にした「クラフトアート教室」を7月に初めて実施し延べ100名の小学生に参加して頂きました。
- ・以前CP主催事業で実施していた「ビーズ教室」参加者をボランティアとして協力をお願いし、8月に「夏休み小学生ビーズ教室」を実施しました。
- ・昨年度試行実施して好評を得た「ぐみカフェ」について、平成30年度1年間をかけて汲沢地区社会福祉協議会との協議を重ねた結果、汲沢地区で2年前に実施した全世帯アンケートの中にも「居場所」についての課題が取り上げられていたことから、CP主催事業としてではなく「とつかハートプラン」汲沢地区別計画の一環として10月から「ぐみカフェプロジェクト」を立ち上げ、約10名のメンバーと一緒に検討を重ねました。
- ・昨年に引き続き「横浜市シニアボランティアポイント」を活用し地域活動交流コーディネーターが講師になりボランティア研修会を実施しました。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ・6月から開始された踊場地区主催「踊場ふれあい午後のカフェ」にケアプラザに常設している「図書コーナー」を活用して図書ボランティア皆さんにも協力して頂き自主事業「出張図書コーナー」として初めて実施しました。
- ・夏休み企画としてケアプラザを利用しているサークル「716crop」、地域で活動している「mama craft」と一緒に協力して小学生を対象にした「クラフトアート教室」を7月に初めて実施し延べ100名の小学生に参加して頂きました。
- ・以前ケアプラザ主催事業で実施していた「ビーズ教室」参加者をボランティアとして協力をお願いし、8月に「夏休み小学生ビーズ教室」を実施しました。
- ・昨年度試行実施して好評を得た「ぐみカフェ」について、平成30年度1年間をかけて汲沢地区社会福祉協議会との協議を重ねた結果、汲沢地区で2年前に実施した全世帯アンケートの中にも「居場所」についての課題が取り上げられていたことから、CP主催事業としてではなく「とつかハートプラン」汲沢地区別計画の一環として10月から「ぐみカフェプロジェクト」を立ち上げ、約10名のメンバーと一緒に検討を重ねました。
- ・昨年に引き続き「横浜市シニアボランティアポイント」を活用し地域活動交流コーディネーターが講師になりボランティア研修会を実施しました。
- ・横浜市が定める貸館マニュアルに沿ってケアプラザの場を提供しました。ただ各地域活動団体との関係性を重要視し地域活動団体から部屋等の相談があった場合、地域支援に繋がる事業等であればケアプラザとしても積極的に部屋利用を促すことで協働で事業開催も展開していきます。また年に1度、必ず広報紙やホームページに貸館利用案内を掲載し利用を促しました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- ・ 昨年に引き続き「横浜市シニアボランティアポイント」を活用し地域活動交流コーディネーターが講師になり研修会を実施しました。
- ・ 子育て支援事業「どれみの森のお友達」では地域に住む様々なボランティアの皆さんに参加して頂きました。年配の方も数多く協力頂いており、多世代間の交流の場所にもなっています。
- ・ 6月から開始された踊場地区主催「踊場ふれあい午後のカフェ」の「出張図書コーナー」では既にケアプラザで活動されていた図書ボランティアの皆さんが新たな活躍できる場所として参加して頂きました。
- ・ 以前ケアプラザ主催事業で実施していた「ビーズ教室」参加者をボランティアとして協力をお願いし、8月に「夏休み小学生ビーズ教室」を実施しました。新たなボランティア活動として3団体の代表者との関係を構築し、当日は各団体の皆さんに協力して頂きました。
- ・ 毎月、施設全体で「ボランティア連絡会」を開催し、ボランティアの活動状況の確認や課題抽出を行いました。
- ・ 踊場「ちょこっとボランティア」では登録ボランティアのスキルアップ研修会の企画検討に携わり、協力しています。6月にグループ内のメンバーを講師に「庭木の剪定講座」を開催し、ケアプラザ敷地内を実践する場所として提供しました。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ・ 地域で把握した情報等は毎月発行している広報紙「ぐみぐみ」を中心にホームページ等を活用して発信しました。
- ・ 既存のホームページをバージョンアップしスマートフォンからも閲覧しやすい環境を整えました。
- ・ 地域活動を紹介するパネルを各地区の要望に応じて一緒に作成し、踊場地区センターまつりでも展示しました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

- ・ 毎月開催している「地域ケア会議検討会」では生活支援コーディネーターから地域状況について簡易的なアセスメントシートで情報共有し、各地域での会議等で使用した資料等も一緒に配布し、生活支援コーディネーターの動きを全体として把握してもらえるようにしました。地域活動交流コーディネーターからはケアプラザ主催事業を中心に情報提供を行い、包括が把握している個別ケースの情報と地域情報が繋がる役割を果たしました。また生活支援コーディネーターは地域活動交流事業部門会議でも地域情報について提供し地域・地域包括が一体的に地域支援に取り組んでいける環境を整えました。
- ・ 生活支援コーディネーターが出席している各地域活動定例会等で出される個別ケースについて常に地域包括支援センターと情報共有を行い、個別支援が必要な場合は、地域包括支援センターが関係者との連絡調整役を担いました。例えば、汲沢地区民生委員児童委員協議会では今年度から定例会の中で必ず民生委員と包括職員との個別ケースに関する情報共有の機会を設けることになりました。また「汲沢地区見守り活動連絡会」や「踊場ちょこっとボランティア」では個別ケースでの対応が増えてきたことから、定例会等で包括職員から地域活動と包括支援センターとの関係性について説明することで、早い段階で包括に情報が提供され、また地域活動においてもボランテ

ィアの皆さんが安心して活動出来るように努めました。

・地域活動交流コーディネーター中心に企画した「ぐみカフェ」については、汲沢地区社会福祉協議会との協議を重ねた結果、汲沢地区で2年前に実施した全世帯アンケートの中にも「居場所」についての課題が取り上げられていたことから、ケアプラザ主催事業としてではなく「とつかハートプラン」汲沢地区別計画の一環として10月から「ぐみカフェプロジェクト」を立ち上げ、約10名のメンバーと一緒に検討を重ねています。生活支援コーディネーターは汲沢地区全体の視点にたって、汲沢地区と地域活動交流コーディネーターとを繋げる役割を果たしました。

・汲沢地区社協、西横浜国際総合病院共催事業「健康医療講演会」は生活支援コーディネーターと看護師が協力して12月1日に実施しました。また踊場地区連合町内会、踊場地区センター、西横浜国際総合病院、地域包括支援センター共催で踊場地区センターを会場に在宅介護・医療セミナーを始めて開催しました(2/16)。当日は70名を超える皆さんにお越し頂きました。

・主任ケアマネジャー主催「ケアマネ勉強会」においては生活支援コーディネーターも参加しケアマネジャーに向けて地域状況について情報提供しました。

・8月から開始した「県団まちを考える会」を県営汲沢団地とケアプラザの情報共有の場として毎月開催しています。ケアプラザは生活支援コーディネーターを中心に、包括職員、また地域交流コーディネーターがその都度出席し情報共有を行いました。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

・生活支援コーディネーターは専門職としての視点で把握する「地域アセスメント」は常に把握し、アセスメントシートをはじめ記録に残しました。

・5職種で毎月実施している「地域ケア会議検討会」では生活支援コーディネーターから簡易的なアセスメントシートを配布し、逐一、各地域の状況やニーズについて5職種で把握に努めていました。

・担当している3地区では一昨年度から住民主体でアンケート調査等を始め様々な手法で「地域アセスメント」に取り組まれています。生活支援コーディネーターは住民の皆さんと一緒に考え共有する時間を過ごしました。例えば踊場地区では「いま・これから」カードの実施で住民のニーズを把握し、6月から「踊場ふれあい午後のカフェ」が立ち上がりました。また汲沢地区では地区全体で実施した全世帯アンケート結果から「身近に相談できる場所と人」をニーズとして捉え、ケアプラザと汲沢地区社協共催「ぐみカフェ」プロジェクトを立ち上げました。

・「3地区情報交換会」では、北汲沢地区で以前実施された全世帯アンケートの中で「移動支援のニーズが増加している」との報告を受けて、現在3地区で移動支援をテーマに、10月は西横浜国際総合病院で実施している移動サービスについて担当者から説明してもらい情報の共有に取り組みました。

・8月から開始した「県団まちを考える会」。県営汲沢団地とケアプラザの情報共有の場として毎月開催しています。ケアプラザは生活支援コーディネーターを中心に、包括職員、また地域活動交流コーディネーターがその都度出席し情報共有を行いました。県営汲沢団地自治会からは会長を始めキーパーソンの皆さんが出席しています。現在は外国籍の転入者が増えている等、CP側で把握していない情報を随時共有しており、その中でニーズの把握にも繋がりました。

(3) 連携・協議の場

・一昨年に北汲沢地区で実施された全世帯アンケートでは、地域特性やエリア内の高齢化が高まっていることと合わせて、近隣の個人商店が閉店してしまったことから、商店や公共交通機関への送迎に関する要望が非常に増加していることが判明しました。その事実を受けて年2回、生活支援コーディネーター主催で実施している「3地区情報交換会」では「移動支援」に関する情報交換の時間を設け、平成30年度1回目は西横浜国際総合病院で実施している送迎サービスについて、第2回目には生協戸塚病院で実施している同じく送迎サービスについて各病院の担当者をお招きして情報提供して頂き、エリア内の状況について情報共有しました。

・平成30年度から開始された「県営汲沢団地まちを考える会」では毎月定期的に開催し、主に県営汲沢団地自治会の現状について情報共有する時間になりました。県営汲沢団地自治会長を始め、各自治会役員の皆さん、区役所、区社会福祉協議会の地区担当者、そして生活支援コーディネーターを主に地域包括支援センター職員も出席しました。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

・一昨年に北汲沢地区で実施された全世帯アンケートでは、地域特性やエリア内の高齢化が高まっていることと合わせて、近隣の個人商店が閉店してしまったことから、商店や公共交通機関への送迎に関する要望が非常に増加していることが判明しました。その事実を受けて年2回、生活支援CO主催で実施している「3地区情報交換会」では「移動支援」に関する情報交換の時間を設け、平成30年度1回目は西横浜国際総合病院で実施している送迎サービスについて、第2回目には生協戸塚病院で実施している同じく送迎サービスについて各病院の担当者をお招きして情報提供して頂き、エリア内の状況について情報共有しました。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

・高齢者に関するさまざまな相談を受けるため、各地区民生委員協議会や地区見守り活動連絡会・ボランティア等地域支援者の会合に参加し、情報収集・包括機能の周知に努めました。

・実際の相談対応においては、生活支援コーディネーターと連携を密にし、地域支援とケアマネジャー等専門的支援が円滑に協働できる体制を整え実施してきました。

・地域で開催される高齢者対象の会に積極的に出向き、相談しやすい関係づくりに努めました。

② 実態把握

・相談者の一覧名簿の作成を行い、把握したケースについての追記・修正を随時、行いました。5年の保管期限が過ぎた情報については、整理処分を行いました。

③総合相談支援

- ・今年度、総合相談件数は2,264件で月平均189件でした。昨年と比べて、インフォーマルサービスに関する相談が増えました。
- ・汲沢独自の総合相談受付マニュアルを作成し、随時改訂を行いながら、包括内での情報共有を行い、基本的な対応を統一し継続的な支援が行えるようにしました。
- ・情報共有については、月2回のケース会議を開催し、期間内に関わりのあった全ケースについて情報共有し、支援の方向性の確認・検討を行いました。その他にも、個人情報適切に管理できるようにセキュリティをかけた環境で、早急な情報共有や対応が必要なケースについては、PC内に伝言版を作成し継続的な支援が行えるような体制をとっています。
- ・新しい事業所や制度等の情報収集を行った場合には、紙ベースでの管理と、PC内で事業所一覧等の作成を行い、事業所内で共有し、3職種誰でも相談を受けた場合に対応をできるようにしています。
- ・月1回の区カンファの開催。また、必要時には随時区役所などの関係機関へ連絡・相談し、ケース検討や同行訪問を行いました。
- ・汲沢オリジナルのマニュアルを作成し、継続的なフォローを行っています。
- ・アフターフォローの必要なケース（例：ケアマネジャーに引き継いだケースについては、1カ月後にケアマネジャーへ、2カ月後には家族へ状況確認するなど）については、随時、支援の方向性をケース会議等で検討しました。

(2) 権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ・権利擁護、消費者保護の情報提供が行えるようにパンフレット等の整理を行い、地域の方が自由に情報を得られるようにしました。相談があった場合には、その情報を利用し適切な対応を行い、必要時には、関係機関へ繋いだり同行訪問を行いました。地区内で消費者被害にあったケースについては、所内で情報共有すると共に、地域へも情報発信し、注意喚起を行いました。
- ・区長申し立てが必要な事例については、区へ速やかに繋ぎました。
- ・本人・親族申立支援については、制度の説明・手続き方法の相談を行っています。必要時には、専門家への相談・繋ぎを行っています。
- ・権利擁護事業
弁護士と司法書士の方を講師に招き「相続・遺言の基礎講座」を2月に開催しました。この講座では実例をもとに分かりやすくトラブルに巻き込まれないために今から出来る準備についても紹介されました。年齢問わず多くの方に参加いただき、地域の方の生活の安心・安全の準備に役立てていただけたと思います。

②高齢者虐待への対応

- ・虐待事例については、速やかに区へ報告し、情報共有と支援の方向性を検討しています。
- ・虐待と疑われる事例についても、速やかに区へ報告し、関係者間でカンファレンスを開催し情報共有と役割分担などの支援の方向を検討し対応しました。虐待管理ファイルを作成し、定期的に区と方針の確認・検討を行いました。
- ・虐待対応終了ケースについても、再発予防の観点から、電話・訪問等によりフォローを行いました。
- ・介護をしている方同士の交流を目的として、日頃の思いや悩みを話したり情報交換の場としての「かいごカフェ」を年9回開催しました。

③認知症

- ・戸塚区認知症キャラバンメイトとエリア内にある訪問看護ステーションと一緒に、開催したことのない矢部町を中心に認知症サポーター養成講座を開催しました。ご夫婦、親子の参加が多くみられました。1月に行われる戸塚区認知症フォーラムでも運営の支援を行いました。
- ・エリア内グループホームで開催されたオレンジカフェについて、運営見直しの相談があり、一緒に改善策を検討しました。その結果、地域で行っているサロンと重ならないように日時を調整し、地域住民の協力が得られるようになりました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・3地区（汲沢、北汲沢、踊場）の地区民児協定例会に毎月出席し、適宜、情報共有を行うことで、個別支援が協働できる体制づくりを行いました。
- ・汲沢地区「見守り活動連絡会」に生活支援コーディネーターと町内会単位の定例会に参加しました。今年度は10月に大久保自治会、ぐみさわ東ハイツ自治会、さつき町内会の「見守り活動連絡会」で、包括の役割等周知等、単一町内会との関係構築に努めました。
- ・踊場地区では、民生委員児童委員と友愛活動員による情報交換会に参加しており、今年度実施された認知症のテーマ情報交換会では、個別ケースを中心にスーパーバイズの役割を果たしました。また、地域活動との円滑な協働のため、ちょこっとボランティアの定例会に参加し、包括機能について周知することで協働できる関係づくりになりました。

②医療・介護の連携推進支援

- ・戸塚区主任ケアマネジャー連絡会を中心に、区域の在宅医療相談室や在宅療養連絡会との連携を密にし、医療連携の強化に努めました。
- ・戸塚区を中心に、市内30ヶ所の病院ソーシャルワーカーと区内のケアマネジャー65名との連携を目的とした研修会を主マネ連絡会で開催し、実務者レベルの連携を行いました。

③ケアマネジャー支援

- ・日常支援として、ケアマネジャーの支援困難ケースや地域支援との協働が必要なケースの相談に随時対応し、円滑な支援が出来るようケアマネジャー支援を行いました。
- ・「けあまね勉強会」では、第1回は、汲沢地域の地域包括ケアの事例をもとに認知症高齢者を支える具体的な体制について実施（15名）し、第2回は、意欲を高める介護予防ケアマネジメントについて事例を用いて実施（18名）し、地域包括ケア・介護予防の理解を深める研修となりました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ・区役所とケアプラザ多職種により毎月地域ケア検討会を実施し、個別ケースの選定や地域情報の共有・地区計画の進捗状況の確認を行い、地域包括ケアの共通理解に務めました。
- ・今年度は、第1回虐待の恐れがある認知症高齢者世帯のケースについて、地域支援と専門的支援の協働を目的に実施し、それぞれの役割確認により円滑な支援につながりました。第2回は、認知機能の低下がある身寄りがない一人暮らし高齢者の意思決定支援について、地域支援者と専門的支援者が情報共有・現状把握することで、支援者が孤立しない支援方針の確認ができました。
- ・ケアプラザ圏域地域ケア会議を3月に開催し、認知症一人暮らし高齢者の支援について、本人の日常生活・意志を守りながら本人だけでなく支援者もつながり安心して支援できる協働のあり方に加え、支援のその先、成年後見制度活用についても、民生委員や地域支援者・ケアマネジャー23名の参加を得て行いました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ・エリア内5ヶ所の元気づくりステーションや地域の健康づくりグループや老人クラブなど交流促進を目的としたサロン、生活支援グループ（ちょこボラ）など地域の社会資源をプランに組み込みながら、事業対象者、要支援者に至るまで一貫したケアマネジメントを実施し、利用者の目的や自立にそった支援を行いました。エリア内を担当しているけあまね勉強会でも、インフォーマルサービスの利用や訪問型短期予防サービス、民生委員等地域関係者との連携などの事例を紹介しながら、一緒に研鑽。より具体的に「自立支援」を考える機会になったとの感想が多数寄せられました。
- ・プラン委託の場合は、担当ケアマネジャーと同行してスムーズなコミュニケーションが図れるようにしました。
- ・委託先ケアマネジャーと包括職員間で情報の共有を密にして、担当者不在時も迅速に対応しました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- ・介護予防普及強化事業として、初めて上矢部地域ケアプラザと共催で踊場地区矢部町方面の住民対象にタツミ訪問看護ステーション会議室での介護予防教室を4回開催。また高齢化が進み、老人会への出席者が減少している東明、東西町内会と近隣の方中心に東明倶楽部で4回開催しました。老人会に参加しない新メンバーの参加もみられました。介護予防意識を高めることができ、終了後はそれぞれ「おどりば PPK」「東明げんきかい」と継続グループが立ちあがり、自主化目指して月1回の開催を支援しています。
- ・区での人材育成講座への参加を推進し、5名が養成講座修了。特に運営、人材育成の支援に力を入れた「わいわいがやがやクラブ」からは2名の修了者が誕生し、自主運営ができるようになりました。
- ・介護予防教室終了後に自主活動しているグループやエリア内に5ヶ所ある元気づくりステーション代表メンバー、はまちゃん体操普及員、ハマトレリーダーなどエリア内で活動しているボランティアのスキルアップ研修を3月に開催することになり、「お身体に障害のある方を理解しよう」とのテーマで研鑽と交流を図りました。
- ・元気づくりステーションが活動しやすいように、区と共同で企画を検討しました。

・地域交流や生活支援コーディネーターと一緒に地域の老人会や社会福祉協議会と連携しながら、食事会などで脳トレ体操、老人会で介護予防講座や介護保険についての講座を開催しました。

5 その他

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

利用者の皆様に安全快適にご利用いただくことを目的として、次のような施設維持管理の適正化に努めました。

- ・ 建築基準法第12条による特殊建築物定期点検ほか、法定により定められた各種点検、電気設備、水質検査、消防設備、ばい煙測定、受水槽、EV等の点検等を実施しました。高齢者福祉センターと共に経年劣化状態を判断し、区と協議の上、保全措置を行いました。
- ・ 委託契約書に基づき、日常清掃・定期清掃・施設管理業務を行い、快適な環境維持に努めました。
- ・ 災害時停電等の電源確保を目的としたガスコージェネレーション設備の安定稼働に努めました。
- ・ 毎日、宿日直者が保守点検チェック表に基づき、施設内設備と外周の巡視点検を実施し、破損・故障箇所等を日誌に記録し報告しました。
- ・ 幹部職員による毎月の防災パトロールを実施し、建物内外の危険・破損箇所をチェックし、施設の安全・維持管理のために、危険・破損箇所の速やかな保守修繕を行いました。
- ・ 施設内清掃は障がい者就労支援事業者に委託し、週5日、館内全体の清掃を実施しました。
- ・ 地域ボランティアの協力の下、敷地内の清掃・除草等を徹底し、環境整備に努めました。

(2) 効率的な運営への取組について

利用者の皆様の快適な利用を優先に考え、効率のよい運営に努めました。

- ・ 高齢者福祉センター全体で協業体制をとり、効率的な運営を行いました。
- ・ 地域包括支援センター、地域交流部門、居宅介護支援事業所、デイサービス等のケアプラザ職員が情報を共有し、連携しながら効率的な運営を行いました。
- ・ 地域の関係機関や関係者、区行政とも連携を図り、ネットワークを強化し、地域ニーズに対応できるよう努力しました。
- ・ 運営協議会、運営推進会議、地域ケア会議等を開催し、地域の方や関係者の意見を業務等に反映させ、地域の方から好評価を頂きました。
- ・ 高齢者福祉センター経営計画に基づき、計画的な運営に努めました。
- ・ 効率的な情報共有、介護保険請求業務等のため、随時、パソコンやソフトをバージョンアップしました。
- ・ 省エネのため、空き部屋や休憩時間の消灯、電気器具のスイッチオフを徹底し、夜間宿直者の巡視を徹底しました。
- ・ 毎月、運営会議において収支状況や光熱水費を職員に周知し、経費削減、効率的な施設運営を図りました。

(3) 苦情受付体制について

横浜市苦情対応事務処理要領に基づき、当プラザで規定した苦情解決要綱並びに苦情解決マニュアルに解決責任者及び窓口を明示し対応しました。

- ・ 苦情・要望など、難度の高いものについては申立ができる仕組みになっています。
- ・ 毎月2人のモニターが来所し利用者との面談を行い、利用者の苦情や要望をお聞きするモニター制度を継続しました。
- ・ 館内に設置してある「あなたの声」（投書箱：2か所）に寄せられたご要望やご意見への対応は、館内掲示、運営協議会での報告、広報紙による情報公開を行いました。
- ・ 年1回利用者アンケートを実施し、そこに寄せられた意見や要望への対応結果は、第三者委員に報告すると共に広報紙等にも掲載しました。
- ・ 苦情は朝のミーティングや部署会議などで報告検証しました。
- ・ 苦情の対応状況は毎月第三者委員に報告し、指導助言を仰ぎました。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

・ 正面玄関等の出入り口には防犯カメラを設置し、緊急時の対応、不審者の侵入を抑制する取り組みをしました。

- ・ 防犯対策は、当プラザで規定する防犯マニュアルに基づいて対応しました。
- ・ 戸塚消防署立会いの下、地元の町内会と交わした「消防応援協力に関する覚書」に基づいて、災害時の相互の応援体制を図りました。
- ・ 正面玄関に設置されたAEDの操作訓練は、年1回職員全員の研修を行い、消防署立会いによる年2回（10月・3月）の総合防災訓練を実施しました。
- ・ 夜間の巡視等警備体制を強化しました。
- ・ 防災対策は、当プラザで規定する地震防災マニュアルに基づいて対応しています。
- ・ 当プラザは災害時における在宅要援護者のための福祉避難場所として登録されていますので、要援護者の把握に努めると共に、広報誌などにより地域への周知を図りました。
- ・ 災害時応急備蓄物資は種類ごとに消費期限を明示し、適宜交換しました。
- ・ 災害発生時に備えて防災マニュアルに基づいた職員の役割分担・連絡体制など、職員に指導しました。
- ・ 幹部職員による毎月の館内や周辺のパトロールを実施し、不具合に対応しました。

(5) 事故防止への取組について

センター全体でのオープン研修において、職員全員を対象とした法令順守に則った利用者支援の理念・技術向上の研修を実施しました。

- ・ 事故発生時は当プラザが規定する事故対応マニュアルに基づいて速やかに対応し、市の「事故発生時の報告取扱要領」に従って所管課へ報告しました。
- ・ 事故発生に際しては、事故対応マニュアルに沿って対応しました。
- ・ 事故防止を目的として、各部署管理者による「リスクマネジメント委員会」を隔月開催し、各部署の事故やヒヤリハットについて検討・協議しました。また、毎月の運営会議においては、事故やヒヤリハットについて情報を共有し、各部署の事後防止に努めました。
- ・ 運営会議での事故やヒヤリハット報告は各部署職員に周知し、危機管理意識を高めました。
- ・ 運転をする職員にはドライバー研修を実施しました。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

事故発生時には、直ちに所轄（戸塚区福祉保健課事業企画）へ連絡相談することを徹底しました。

- ・個人情報保護については、当プラザが規定する「個人情報の保護に関する取扱要綱」に基づいて、保有する個人情報の適正な管理を行いました。
- ・個人情報管理責任者並びに個人情報管理者を定め、情報管理体制を徹底しました。
- ・職員はもとより、業務委託業者並びに当プラザに業務上出入りする者に対して、「横浜市個人情報の保護に関する条例」に準拠し守秘義務の徹底を図りました。
- ・個人情報を含む書類等の取扱いにおいては、郵送物の誤送付や連絡帳の取り違え等の事故防止に向けて、複数によるチェック体制を強化しました。
- ・ファクシミリ送信は個人情報に当たる部分を塗りつぶすなど工夫しました。
- ・個人情報が含まれるパソコン等は必ずパスワード入力し、不使用時は鍵のかかる引き出しあるいはロッカーに収納しました。
- ・バックアップ用のメモリー等は鍵の掛かるロッカーに保管し持ち出し禁止にしています。
- ・4月、プラザ全職員に個人情報保護研修を実施し、「個人情報保護に関する誓約書」を所轄に提出しました。
- ・他部署や他機関の漏えい事故発生の場合も、その情報を職員に周知し注意を喚起しました。

(7) 情報公開への取組について

- ・施設内にご意見箱を設置し、地域や利用者の意見、要望、苦情を受けつけ、その対応結果については館内掲示し、広報誌にも掲載しました。
- ・ホームページ、広報誌に、ケアプラザの事業計画や事業報告、収支報告、利用者アンケートの結果や対応などの情報を載せ、公開しました。
- ・10月に第三者評価を受審し、その結果をホームページに掲載しました。

(8) 人権啓発への取組について

子ども、高齢者、障がい者等が生き生きと暮らせる地域社会の実現を目指し、地域住民と連携協力して人権啓発に努めました。

- ・町内会、民生委員などの地域の方々と協力して、さまざまな権利擁護事業を推進しました。
- ・認知症やネグレクトなどの多様な相談に応じ、問題解決と人権擁護のため、関係機関と連携協働しました。
- ・虐待や消費者被害などの権利侵害から高齢者を守るよう努めました。今年度は特に特殊詐欺の被害にあった高齢者の相談に対応すると共に、被害拡大を防ぐため、地域町内会の方々と連携し、「詐欺に注意！」とのチラシを作成し、地域町内会全域に配布しました。
- ・区とのケースカンファランスを通じて、民生委員と連携しながら高齢者虐待防止法による虐待の早期発見、早期対応に努めました。
- ・地域の方々に権利擁護に関する情報提供や周知を行いました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

地域環境への配慮をすると共に、ご利用の皆様が快適で過ごしやすい施設環境を整えることを目指しました。

・定期的にばい煙測定を実施し、二酸化炭素やダイオキシン等を法定内の排出量に抑えました。

・利用者の食事残菜量の削減を目指し、楽しんでもらえるメニュー、残さないためのメニューを工夫しました。

・コピー機より安価で効率の良い印刷機を活用し、コピー枚数の削減に努めました。

・移動手段を自動車から環境に優しく駐車スペースを取らない電動自転車に代えることによって、少しでも温暖化防止に努めました。

・館内自動販売機の横にキャップ回収箱を設置し、地域の社会運動に協力しました。

・建物の壁に朝顔やゴーヤなどのグリーンカーテンを作り、西日を遮断しました。

・敷地に樹木、竹林、庭木、花壇を配し、利用者の癒しの空間づくりと温暖化防止に努めました。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

社会福祉士 2名
看護師 1名
主任ケアマネジャー 1名
プランナー（非常勤）1名
事務（非常勤） 1名

《目標に対する成果等》

エリア内5ヶ所の元気づくりステーションや地域の健康づくりグループや老人クラブなど交流促進を目的としたサロン、生活支援グループ（ちょこボラ）など地域の社会資源をプランに組み込みながら、事業対象者、要支援者に至るまで一貫したケアマネジメントを実施し、利用者の目的や自立にそった支援を行いました。エリア内を担当しているけあまね勉強会でも、インフォーマルサービスの利用や訪問型短期予防サービス、民生委員等地域関係者との連携など事例を紹介しながら、一緒に研鑽。より具体的に「自立支援」を考える機会になったとの感想が多数寄せられました。

- ・プラン委託の場合は、担当ケアマネジャーと同行してスムーズなコミュニケーションが図れるようにしました。
- ・委託先ケアマネジャーと包括職員間で情報の共有を密にして、担当者不在でも迅速に対応しました。

《実費負担》

●なし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

包括エリア内には、地域包括が協力して立ち上げた元気づくりステーションが5か所、介護予防Gは6か所になりました。委託先のケアマネジャーにも情報提供しながら、要支援者には積極的に活用を働きかけています。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
219	213	221	221	228	234
10月	11月	12月	1月	2月	3月
229	235	237	240	243	242

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

- ・ 常勤兼務管理者（主任介護支援専門員） 1名
- ・ 常勤専従介護支援専門員 4名（うち3名は主任介護支援専門員）
- ・ 非常勤事務職員 1名 以上 6名体制

《目標に対する成果等》

- ・ 地域包括ケアシステムの構築を意識した地域住民等への声掛けを実施しました。成果としては、顔を知っている関係だけでなく、実際に日常生活に密着した支援（声掛けや買い物、送迎）に発展しました。
- ・ 居宅療養管理指導などで、医師、歯科医、薬剤師等のアドバイスが在宅療養で情報共有できるようにしました。
- ・ ケアマネジメントに専念できるように、事務の業務効率化の為、提供票送付をデータ送信により誤送信を防ぎました。

《実費負担》

- ご利用者、ご家族からの提供サービスエリア（戸塚区・泉区・栄区）外への派遣依頼があった場合には、旅費（交通費）の実費を請求することにしてはいますが、平成30年度は事例として発生しませんでした。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・ 特定事業所（Ⅱ）として主任介護支援専門員4名を含む常勤5名体制で年中無休で相談を受け付けています。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
140	143	140	141	141	142
10月	11月	12月	1月	2月	3月
144	146	150	148	146	142

平成30年度「浪沢地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)＜地域活動＞

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	20,758,932	866,812	21,625,744	23,585,562	△ 1,959,818	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
指定管理料充当 事業			0	0	0	
自主事業収入			0	340,300	△ 340,300	この列は入力しない
雑入	0		0	400,335	△ 400,335	
印刷代			0	243,650	△ 243,650	コピー機使用料等
自動販売機手数料			0	125,835	△ 125,835	この列は入力しない
駐車場利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
その他(指定管理料充当)			0	30,850	△ 30,850	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)			0	0	0	
その他(提案時控除 法人負担分)			0	0	0	
収入合計	20,758,932	866,812	21,625,744	24,326,197	△ 2,700,453	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	9,659,289		9,659,289	9,926,785	△ 267,496	
本俸	7,577,640		7,577,640	6,656,409	921,231	非常勤給与含む
社会保険料	850,229		850,229	804,549	45,680	
手当計	988,016		988,016	2,199,634	△ 1,211,618	賞与等
健康診断費	54,920		54,920	55,977	△ 1,057	
勤労者福祉共済掛金	14,340		14,340	12,600	1,740	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	93,144		93,144	93,336	△ 192	市社協退職共済掛金
その他	81,000		81,000	104,280	△ 23,280	福祉医療機構掛金・中退共掛金
事務費	1,957,898		1,957,898	1,548,985	408,913	
旅費	1,800		1,800	820	980	出張旅費等
消耗品費	378,972		378,972	154,930	224,042	コピー用紙、文房具等
会議随費			0	0	0	
印刷製本費			0	15,795	△ 15,795	パンフレット印刷等
通信費	610,400		610,400	609,223	1,177	NTT、切手代等
使用料及び賃借料	0		0	0	0	
横浜市への支払分			0	0	0	
その他			0	0	0	
備品購入費	465,200		465,200	24,803	440,397	
図書購入費	100,000		100,000	31,054	68,946	図書コーナー用本代
施設賠償責任保険	49,542		49,542	49,542	0	
職員等研修費	56,302		56,302	28,016	28,286	
振込手数料	43,200		43,200	39,101	4,099	
リース料	106,432		106,432	210,510	△ 104,078	パソコン・印刷機・AEDリース料
手数料			0	170,640	△ 170,640	第三者評価
地域協力費	69,250		69,250	92,750	△ 23,500	諸会費・地域行事参加時祝い金等
その他	76,800		76,800	121,801	△ 45,001	ボランティア用菓子他
事業費	732,500		732,500	846,212	△ 133,090	
運営協議会経費	42,000		42,000	22,622	19,378	予算：指定額
指定管理料充当 事業	690,500		690,500	823,590	△ 133,090	自主事業
管理費	9,205,363	866,812	10,072,175	11,210,073	△ 1,137,898	
建築物・建築設備点検			0	0	0	予算：指定額
光熱水費	7,090,930		7,090,930	8,102,327	△ 1,011,397	
電気料金	1,713,426		1,713,426	1,957,817	△ 244,391	
ガス料金	2,014,081		2,014,081	2,301,354	△ 287,273	
水道料金	3,363,423		3,363,423	3,843,156	△ 479,733	
清掃費	203,251		203,251	145,730	57,521	受水槽・貯溜槽清掃等
修繕費	474,000	866,812	1,340,812	1,340,812	0	予算：指定額
機械整備費	104,436		104,436	104,436	0	セコム
設備保全費	906,446	0	906,446	622,220	284,226	
空調衛生設備保守	297,285		297,285	276,071	21,214	冷温水機切替・エアコンフィルター清掃等
消防設備保守	29,285		29,285	29,284	1	消防設備点検
電気設備保守	99,669		99,669	99,669	0	電気設備点検・エレベーター点検
害虫駆除清掃保守	33,542		33,542	33,542	0	害虫駆除
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	446,665		446,665	183,654	263,011	定期点検・ボイラー点検等
共益費			0	0	0	
その他	426,300		426,300	894,548	△ 468,248	廃棄物処理費用、台風による倒木伐採他
公租公課	855,120	0	855,120	794,142	60,978	
事業所税			0	0	0	この列は入力しない
消費税	855,120		855,120	794,142	60,978	
印紙税			0	0	0	この列は入力しない
その他()			0	0	0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分			0	0	0	この列は入力しない
当該施設分			0	0	0	この列は入力しない
ニーズ対応費			0	0	0	この列は入力しない
支出合計	22,410,170	866,812	23,276,982	24,326,197	△ 1,068,593	
差引	△ 1,651,238	0	△ 1,651,238	0	△ 1,631,860	

自主事業費収入						
自主事業費支出						
自主事業収支	0	0	0	0	0	→自主事業(指定管理料充当の自主事業)費
管理許可・目的外使用許可収入	0		0	0	0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成30年度「汲沢地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(特別会計)

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	29,402,504		29,402,504	31,804,012	△ 2,401,508	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000	167,028	△ 16,028	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000		5,789,000	5,746,898	42,102	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当事業(包括)			0	0	0	
指定管理料充当事業(介護予防)			0	0	0	
指定管理料充当事業(生活支援)			0	0	0	
自主事業収入			0	0	0	
雑入	0	0	0	25,000	△ 25,000	
印刷代			0	0	0	
自動販売機手数料			0	0	0	
駐車場利用料金収入			0	0	0	
その他(指定管理充当分)			0	25,000	△ 25,000	
その他(提案時控除 法人負担分)			0	0	0	
収入合計	35,342,504	0	35,342,504	37,742,938	△ 2,400,434	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	33,303,335		33,303,335	27,685,706	5,617,629	
本俸	22,322,332		22,322,332	14,274,264	8,048,068	非常勤給与含む
社会保険料	4,639,027		4,639,027	3,547,290	1,091,737	
手当計	5,300,236		5,300,236	9,003,422	△ 3,703,186	賞与等
健康診断費	90,000		90,000	61,034	28,966	
勤労者福祉共済掛金	87,072		87,072	30,600	56,472	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	532,668		532,668	441,540	91,128	
その他	332,000		332,000	327,556	4,444	福祉医療機構掛け金・中退共掛け金
事務費	781,320		781,320	789,284	△ 7,964	
旅費	1,656		1,656	1,300	356	
消耗品費	96,192		96,192	55,977	40,215	広報誌用紙代
会議諸費			0	0	0	
印刷製本費			0	0	0	
通信費	33,252		33,252	30,848	2,404	NTT, 携帯電話使用料、切手代等
使用料及び賃借料	0		0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	10,000		10,000	0	10,000	事務用品他
図書購入費			0	0	0	
施設賠償責任保険	103,977		103,977	111,047	△ 7,070	
職員等研修費	29,204		29,204	37,880	△ 8,676	
振込手数料	43,200		43,200	38,669	4,531	
リース料	394,589		394,589	409,002	△ 14,413	パソコン・車両リース料
手数料			0	45,360	△ 45,360	第三者評価
地域協力費	21,250		21,250	21,250	0	諸会費
その他	48,000		48,000	37,951	10,049	ガソリン代他
事業費	1,255,240		1,255,240	6,452,303	△ 5,197,063	
協力医	630,000		630,000	483,000	147,000	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	165,240		165,240	55,377	109,863	
指定管理料充当事業(介護予防)	151,000		151,000	167,028	△ 16,028	
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	5,746,898	△ 5,437,898	予算:指定額
管理費	2,499,279		2,499,279	2,815,645	△ 316,366	
建築物・建築設備点検			0	0	0	予算:指定額
光熱水費	1,884,930		1,884,930	2,153,783	△ 268,853	
電気料金	455,468		455,468	520,432	△ 64,964	
ガス料金	535,388		535,388	611,752	△ 76,364	
水道料金	894,074		894,074	1,021,599	△ 127,525	
清掃費	57,699		57,699	38,735	18,964	受水槽・貯湯槽清掃等
修繕費	126,000		126,000	126,000	0	予算:指定額
機械警備費	27,756		27,756	27,756	0	セコム
設備保全費	196,954		196,954	165,392	31,562	
空調衛生設備保守	73,385		73,385	73,384	1	1 冷温水機切替・エアコンフィルター清掃等
消防設備保守	7,784		7,784	7,784	0	消防設備点検
電気設備保守	28,613		28,613	26,493	2,120	電気設備点検・エレベーター点検
害虫駆除清掃保守	8,915		8,915	8,915	0	害虫駆除
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	78,257		78,257	48,816	29,441	定期点検・ボイラー点検等
共益費			0	0	0	
その他	205,940		205,940	303,979	△ 98,039	廃棄物処理費用、台風による倒木伐採他
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0	0	0	
消費税	0		0	0	0	
印紙税			0	0	0	
その他()			0	0	0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分			0	0	0	
当該施設分			0	0	0	
二一ス対応費			0	0	0	
支出合計	37,839,174	0	37,839,174	37,742,938	96,236	
差引	△ 2,496,670	0	△ 2,496,670	0	△ 2,496,670	

自主事業費収入						
自主事業費支出						
自主事業収支	0			0		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費
管理許可・目的外使用許可収入				0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出				0		使用料(横浜市への支払等)、駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支				0		

平成 30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名: 汲沢地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日
(単位:千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入	11961	13482	-1521	30814	29755	1059			0			0
	その他	0	0	0	2193	2399	-206	0	0	0	0	0	0
	介護予防ケアマネジメント費	0	0	0	0	0	0			0			0
	事業・負担金収入	0	0	0	0	0	0			0			0
	受託事業収入	0	0	0	2193	2399	-206			0			0
		0	0	0	0	0	0			0			0
		0	0	0	0	0	0			0			0
		0	0	0	0	0	0			0			0
	収入合計(A)	11961	13482	-1521	33007	32154	853	0	0	0	0	0	0
支出	人件費	2600	3548	-948	29024	29230	-206			0			0
	事務費	0	0	0	1655	1141	514			0			0
	事業費	0	0	0	284	255	29			0			0
	管理費	44	44	0	339	338	1			0			0
	その他	8020	8717	-697	0	16	-16	0	0	0	0	0	0
	利用者負担軽減額	0	0	0	0	0	0			0			0
	消費税	0	0	0	0	16	-16			0			0
	介護予防プラン委託料	8020	8717	-697	0	0	0			0			0
支出合計(B)	10664	12309	-1645	31302	30980	322	0	0	0	0	0	0	
収支 (A)-(B)	1297	1173	124	1705	1174	531	0	0	0	0	0	0	

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等他の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同様に記載をしてください。

平成30年度 自主事業収支報告書

汲沢地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
ぐみざわ倶楽部	①65歳以上	162325	地活	61225	101100		10800	139205	12320
	②289名		包括						
	③300円～800円		介護						
			生活						
子育て中のママさん・ 一緒におしゃべりしま せんか？	①親子	89300	地活	89300			29160		60140
	②6組		包括						
	③無料		介護						
			生活						
どれみの森のお友達	①親子	140394	地活	90394	50000		108000	15594	16800
	②17組		包括						
	③2000円		介護						
			生活						
やきもの遊び	①障害児親子	15962	地活	1362	14600			12602	3360
	②73名		包括						
	③200円		介護						
			生活						
陶芸教室 ※8月は夏休み親子体験陶芸教 室	①地域住民	133846	地活		162000			133846	
	②96名		包括						
	③500円～2000円		介護						
			生活						
図書コーナー	①地域住民	30764	地活	30764					30764
	②		包括						
	③無料		介護						
			生活						
夏休みビーズ教室	①小学生	11540	地活	5140	6400			11540	
	②16名		包括						
	③400円		介護						
			生活						
夏休みクラフトアート教室	①小学生	16421	地活	16421				16421	
	②100名		包括						
	③		介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業報告書

汲沢地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
図書コーナー	蔵書、約1500冊、戸塚図書館からの本も約500冊を貸出ししています。特に大きな活字本の導入を積極的に進め、施設の特徴を活かしながら一般図書とあわせて子どもからお年寄りまで幅広い年代層の皆さんに活用して頂けるよう整備しました。	【実施時期】 平日：9時～21時 休日、祝祭日：9時～17時 【実施回数】

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ぐみざわ倶楽部	仲間作りや閉じこもりを防ぐ場所として、また地域での繋がりを作ることを目的に実施しています。近隣の汲沢保育園との交流事業を実施し充実を図ることに加え、新たな集いの場と機会を提供しました。	【実施時期】 毎月第3月曜日 13時30分～15時30分 【実施回数】 15回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
陶芸教室	毎回、多くの方にご参加頂いている「陶芸教室」ですが、28年度も引き続き多くの方にご参加頂けるようにボランティアさんの協力を得ながら実施しました。	【実施時期】 隔月土曜日 年間通して実施 9時30分～12時 【実施回数】 20回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
親子陶芸教室	今年度もボランティアの皆さんの協力を得ながら、「夏休み親子体験陶芸教室」を実施しました。	【実施時期】 8月 10時～12時 【実施回数】 3回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育て中のママさん・一緒におしゃべりしませんか？	主に子育てしている母親を対象とした支援事業で、育児で抱えている精神的負担から精神疾患の予防することを目的に親子分離で実施しました。	【実施時期】 1月/2月/3月 10時～12時 【実施回数】 4回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
小学生対象夏休みビーズ教室	自主事業「ビーズ教室」から派生した「ビーズサークル」に協力を依頼して実施しました。	【実施時期】 8月 【実施回数】 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
やきもの遊び	より多くの障がいのある親子が参加できる事業として実施していけるよう、事業の充実に取り組みました。	【実施時期】 隔月第3土曜日 10時～12時 【実施回数】 6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
出張図書コーナー	ケアプラザ内で実施していた「図書コーナー」が地域に向いて「出張図書コーナー」として実施しました。平成30年度は「踊場ふれあい午後のカフェ」にて実施しました。	【実施時期】 6月から毎月1回 13時30分～15時30分 【実施回数】 9回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
どれみの森のお友達	今後、どれみのボランティアグループ「どれみファミリー」にも、より積極的な参加を呼び掛け、プログラムの充実を図りました。	【実施時期】 毎月第3金曜日 10時30分～12時 【実施回数】 10回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
遊び場・しゃべり場・ほっとタイム	子育て支援者が毎週水曜日に来て開催しました。また祝祭日はケアプラザ主催事業として実施しました。	【実施時期】 毎週水曜日 10時～12時 【実施回数50回】

事業名	目的・内容	実施時期・回数
トンとん	エリア内に在学、在住の障がいのある中学生を対象にした余暇活動です。	【実施時期】 毎月第1土曜日 【実施回数】5回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
クローバースポーツクラブ	汲沢地区、北汲沢地区、踊場地区の3地区連合町内会、また汲沢小学校の4機関合同で毎月第2、第4土曜日に開催している「地域総合型スポーツクラブ」です。ケアプラザとしては、健康教室への協力をしています。	【実施時期】 毎月第2、第4土曜日 【実施回数】24回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
人形劇 (汲沢地区青少年指導委員共催)	青少年指導委員との共催事業として、ボランティア団体「人形劇いちご座」の人形劇を開催しました。	【実施時期】 12月 13時30分～ 【実施回数】1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
北汲沢地区社会福祉協議会「車椅子体験」研修会	北汲沢地区「統一防災訓練」の中で北汲沢地区社協共催「車いす研修会」を踊場公園で実施しました。	【実施時期】 1月 【実施回数】 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
夏休み子どもアートクラフト教室	貸館サークルとケアプラザの共催事業。前半と後半に分けて1日の大イベント。当日は延べ100名を超える子ども達に参加して頂きました。	【実施時期】 7月 【実施回数】 1回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
プレママ・プチママ集まれ（汲沢地区主任児童委員・汲沢保育園共催）	汲沢地区主任児童委員、汲沢保育園、そしてケアプラザが連携をとりながら実施しました。	【実施時期】 5月, 6月, 7月, 10月, 11月, 12月 第4水曜日 13時～14時30分 【実施回数】 6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア感謝会	汲沢地域ケアプラザ、特別養護老人ホーム「しらゆり園」で日頃活動して下さっているボランティアの皆さまへ感謝の気持ちをお伝えする機会として実施しました。	【実施時期】 3月 13時～15時 【実施回数】 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
踊場地区センターまつり	踊場地区センター主催「地区センターまつり」の中で、「とつかハートプラン」コーナーとして「地域活動紹介展」を実施。保健活動推進員による「健康測定コーナー」等、地域を知って頂く機会として実施しています。	【実施時期】 2月 【実施回数】 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
踊場文化まつり	踊場地区青少年指導員が中心となり、踊場連合、地区社協、スポーツ推進員等が実行委員会を組織しコーディネーターも一緒に参加しました。当日は「福祉体験コーナー」を担当しました。今年度は福祉業者にも協力をお願いし多種多様な車いすを用意して体験してもらうことが出来ました。	【実施時期】 11月 10時～14時 【実施回数】 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア感謝会	年に1回開催しているボランティアの皆さんに感謝の気持ちを伝える場所です。	【実施時期】 3月 【実施回数】 1回

平成30年度 自主事業収支報告書

汲沢地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
かいごカフェ	①介護している方・経験者	34601	地活	0	0	21600	0	13001	
	②44名		包括						34601
	③無料		介護						
			生活						
権利擁護事業	①地域住民	16329	地活	0	0	10000	0	6329	
	②53名		包括						16329
	③無料		介護						
			生活						
認知症サポーター養成講座	①地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	
	②18名		包括						0
	③無料		介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業報告書

汲沢地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
かいごカフェ	介護者という共通の立場の人たちが日ごろの悩みや思いを語り合う場の提供や介護に役立つ情報を提供しました。 内容は、毎回の懇話会を中心に、特別養護老人ホームの見学、高齢者施設の種類や特色の話、リラックスヨガ、ミニコンサート、ハンドマッサージを行いました。	【実施時期】 4月～3月 (5月、8月、1月は休み) 【実施回数】 9回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
権利擁護事業	地域の方が相続の基礎知識と正しい遺言書の書き方の講座を開催し、弁護士・司法書士の方を講師に招き、实例をもとに法律について分かりやすく説明しトラブルに巻き込まれないよう今からできる準備を紹介しました。	【実施時期】 2月 【実施回数】 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	地域住民が、認知症のこと正しく理解し、支えあえるようになるよう、戸塚区キャラバンメイトの協力で講座を開催しました。	【実施時期】 5月 【実施回数】 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数

平成30年度 自主事業収支報告書

汲沢地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者 ②募集人数 ③一人当たり参加費	自主事業決算額							
		総経費	収入			支出			
			指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
介護予防教室 (健康づくり教室)	①概ね65歳以上の住民	88290	地活						
	②90名		包括						
	③無料		介護	88290	0	0	86000	290	2000
			生活						
介護予防Gスキルアップ 支援	①介護予防教室からの継続	71,468	地活						
	②646名		包括	16028					16028
	③無料		介護	55440	0	0	38000	0	17440
			生活						
介護予防Gリーダースキル アップ研修	①介護予防Gのリーダー	7270	地活						
	②25名		包括						
	③無料		介護	7270	0	0	0	2270	5000
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業報告書

汲沢地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護予防教室 (健康づくり教室)	高齢者の閉じこもり予防や体力づくりは、継続が大切であることを意識してもらうために、ロコモ予防、栄養改善、口腔機能向上、認知症予防についての講座の開催。ロコモ予防体操（ハマトレ体操）脳トレ体操の体験や。仲間づくりのレクリエーションを行いました。	【実施時期】 ①6月～7月 ②9月～12月 【実施回数】 各4回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防Gスキルアップ支援	介護予防教室終了後に立ち上げた継続G（11グループ）のスキルアップを図るために、講師の派遣や運営の支援を行いました。	【実施時期】 毎月 【実施回数】 講師の派遣8回 運営支援は毎月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防Gリーダースキルアップ研修	エリア内で活動している体操リーダー（はまちゃん体操普及員、ハマトレリーダー、コグニサイズ研修修了者など）や介護予防Gの運営に関わるリーダーのスキルアップを目的として、障がい者の方の講座とグループ同士の情報交換の場としてグループワークを開催しました。	【実施時期】 3月 【実施回数】 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数

平成30年度 自主事業報告書

汲沢地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
汲沢地区 健康医療講演会	西横浜国際総合病院、汲沢地区社会福祉協議会共催事業として医療講演会を実施しました。	【実施時期】 12月 【実施回数】 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
踊場地区 医療・介護セミナー	踊場地区連合町内会、西横浜国際総合病院、踊場地区センター、地域包括支援センター共催事業として今年度初めて踊場地区センターを会場に実施しました。	【実施時期】 2月 【実施回数】 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
踊場ふれあい午 後のカフェ	踊場地区「ふれあいプロジェクト」の一環として、踊場地区全体の新たな居場所づくりとして平成30年度から実施されました。 ケアプラザとして地域活動交流事業と協働して出張図書コーナーの実施等、後方支援に努めました。	【実施時期】 毎月1回 【実施回数】 9回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
汲沢地区ふれあ い会食会	汲沢地区民生委員児童委員協議会主催の高齢者昼食会です。ケアプラザを会場に毎月開催されています。ケアプラザはプログラムの企画検討やプログラムの提供等、長年に渡り後方支援に努めています。	【実施時期】 毎月1回 【実施回数】 12回